

一般財団法人
全国大学実務教育協会

会報 第16号

November 2016

CONTENTS

平成28年度会員校代表者交流会	02
協会の動き	03
平成27年度実務教育優秀教員被表彰者寄稿	04
実務教育の現場から	05
協会からのお知らせ	06

会員校代表者交流会開催「テーマ」 大学における人材育成



〒102-0074 東京都千代田区九段南4-2-12
第三東郷パークビル二階
TEL:03-5226-7288 FAX:03-3263-8633
E-mail:jaucb@jaucb.gr.jp
URL:<http://www.jaucb.gr.jp>

平成28年度会員校代表者交流会

「現場のつぶやき」に耳を傾ける

2016年9月9日、東京都新宿区のホテルグランドヒル市ヶ谷において、一般財団法人全国大学実務教育協会会員校の代表者交流会(第1回)が開催された。福井洋子協会理事(大手前短期大学学長)の司会で午後1時に開始された交流会のテーマは「大学における人材育成」。まず森脇道子代表理事・会長が開会挨拶を行った。会長は、「個々の現場を超えたネットワークを構築つつ、実務の現場で変化は当たり前と受け止め、現場のつぶやきを生かしながら、今、現場での仕事の進め方改革を始めている」と語り、「交流会を年1回ペースで開催したい」と提案をした。



高大接続改革と入学時から卒業時までの一貫した教育改革

続く基調講演では、文部科学省の義本博司官房審議官(高等教育局担当)が「大学における人材育成と高等教育政策の諸動向」をテーマに語った。

文科省は、アドミッション・ポリシー、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーによる入学時から卒業時までの一貫した教育改革を達成するための具体的なガイドラインを定めている。「どんな能力を入学者に求め、どんな評価法で見るかを高校に説明してほしい」と高大接続の重要性を指摘した。

また「特に地方においては、若者がその地域にとどまって活躍するために高等教育の役割は大きい」と強調した。一方、政府で議論している働き方改革の中で、就業構造の変化に応じた社会人のキャリアチェンジは不可欠であり、学び直しも含め、高等教育の役割は大きく、そのために職業実践力育成プログラム(BP)認定制度が昨年創設されている。「BPの主体は実務教育。当協会の会員校は、BPと連動する柔軟なプログラムを用意してほしい」と語った。



シンポジウム「今、大学における人材育成を考える」

続いて、越塚宗孝協会理事(札幌国際大学学長)の司会で、シンポジウム「今、大学における人材育成を考える」が開催された。

最初のパネリストである山下恵子協会理事(宮崎学園理事長)は、資格教育課程審査常任委員会の委員、委員長を17年間歴任しており、その経験から資格教育課程の変遷を「ここ2,3年、質保証が重視され、資格の実効性が厳密に問われるようになった」とは解説した。

また本協会の資格改革の取り組みとして、平成25年度から取り組みである「資格教育課程の見直しと到達目標の明確化」と「実践キャリア実務士教育課程から始めるループリックによる到達目標達成度評価制度による質保証の導入」、平成28年からの取り組みである「全資格の質保証の実質化に向けて『資格到達目標を達成する教育課程編成の整理とその評価制度』」の紹介があった。そして本協会の資格の質保証の実質化に資する「資格到達目標を達成する教育課程編成の整理とその評価制度」を解説した。

次に平成28年4月にスタートした「地域で働く卒業生等社会人の教育事業」の進捗状況を常磐大学の菅田浩一郎准教授が説明した。この事業は、卒業生等社会人の教育事業推進特別委員会(委員長:森征一常磐大学理事長)が推進している。大学・短大がサポートし、入社3年以内の卒業生と5年から10年の中堅・ベテラン社員が語り合い、仕事の意味や価値を再認識するプログラムである。スタート以降、地元企業のヒアリングを重ね、8月に内容を検討し、地元中小企業をパートナーとするといった今後の方針が決まったことが紹介された。

3人のパネリストは、小暮恭一協会理事(株式会社エム・ソフト取締役会長兼CEO)。エム・ソフトは、年間30数名の学生のインターンシップを受け入れており、小暮理事は、「企業側から見るインターナーシップの現状と課題」について語った。

エム・ソフトでは、学生の学習内容等に応じて、3コースを用意し、成果が評価できるようにしている。しかしインターンシップの継続意欲の維持の難しさなど種々の問題があり、「インターナーシップによる就業体験の重要性を認識していない学生が多い」と実情を語り、文章が稚拙などの学生の能力不足を指摘した。さらに「インターナーシップを採用選考に結び付けてはいけない」というルールに疑義を呈した。

最後のパネリストは、清水一彦協会理事(山梨県立大学理事長・学長)。テーマは「能動的学修とループリックによる評価をめぐって」である。平成29年度からスタッフディベロップメント(SD)が義務化されるが、「本協会の資格改革にみるループリックによる到達目標達成度評価制度は大学教育の質保証の組織化として意義深い」と評価した。また大学教育の問題の本質として、カリキュラム観の固定化や教授法の硬直化などを指摘し、対処法として、カリキュラムを精選・厳選、能動的学修に応じる教授法の改善などを提案した。また、学修成果をループリックと卒業論文、GPAなど種々の学修成果データと組み合わせて測定することの価値を説明し、ループリック評価の積極的活用を求めた。



参加者全員の活発な意見交換会

その後、「今、大学における人材育成を考える」というテーマで、交流会参加者46名の意見交換会が行われた。リラックスした雰囲気でディスカッションをするワールドカフェ方式で、8つのテーブルで5、6名が意見交換を行い、4回のメンバー交代の後に全体セッションに至った。全体セッションでは、アクティブラーニングに関して「教員の教育が必要」、インターンシップに関しては、「事前講習が必要」など種々の貴重な意見が発表された。ま

た「認定資格の価値を企業に伝えてほしい」などの本協会への要望も出た。

そして17時20分に本協会の関昭一副会長が閉会の挨拶を述べ、4時間20分の交流会を定刻で締めくくった。



協会の動き

1 第3回能動的学修の教員研修リーダー講座の実施

講座は前年度と同様に、平成28年3月に会員校(理事長151、理事長・学長198)のほか、会員校以外(公立大学 理事長・学長61、私立短期大学 学長199、私立大学 理事長・学長・学部380)にもご案内し、理事長・学長からの推薦により27名(大学13名、短大14名)の参加がありました。

第1回(8月27日)、第2回(9月24日)、第3回(10月29日)と、予定の講座が無事終了し、参加者27名に清水委員長から修了認定証が手渡されました。

「能動的学修の教員研修リーダー講座」は、今後も継続することを予定しています。次年度の開催については詳細が決まり次第会員校の皆様にご案内させていただきます。



2 能動的学修の教員リーダー講座修了者を対象とした 「第2回能動的学修の教員研究会」の実施

応用編としての「能動的学修の教員研究会」は、去る8月26日(金)に第2回能動的学修の教員研究会を開催し、20名(大学8名、短大12名)の参加がありました。

まず初めに、筑波大学の山口香先生を講師として招聘し「スポーツマネジメント—最高のパフォーマンスを発揮させるには」と題とした講義をいただき、参加者はモデル授業を通して能動的学修の推進に向けて多くのヒントを得ました。

次に、事前に提示された課題(4択:「学びの技法」、「授業デザイン」、「学修成果と評価」、「地域連携・産業連携」)にそったテーマ別研究会、全体発表と討議を行った後、情報交換会では「今後も年に1回は集まりましょう」との、意見の一致を見て散会しました。



3 卒業生等社会人の就業力向上支援事業の推進

「地域で働く卒業生等社会人のための実践就業力向上」の教育事業を推進するために、特別委員会(卒業生等の社会人の教育事業推進特別委員会)を設けそのもとに2つのチーム(「就業力向上のための教育プログラム開発チーム」と「就業力向上教育事業推進スタッフチーム」)を設置しました。

各チームは、テーマにそって、地域で働く卒業生等社会人の実践就業力向上の教育プログラム開発や、地元卒業生の就業力向上支援推進にかかる情報交換を行い、事業推進に資する運営マニュアルの作成を進めています。



4 平成28年度教育責任者・連絡責任者のための資格実務等説明会の実施

平成28年6月25日(土)に主婦会館プラザエフ 4階エミールにおいて会員校教育責任者・連絡責任者説明会を開催し、会員校45校46名の出席がありました。引き続き個別相談会を開催し、次年度から開設予定の資格教育課程の事務手続き等、具体的な相談が延べ18大学からありました。

▲平成27年度実務教育優秀教員被表彰者寄稿

「こども音楽療育士」「保育音楽療育士」

—教員間・科目間連携で向上させる教育力—

札幌国際大学 人文学部心理学科こども心理専攻 准教授 三宅浩子



この度は、実務教育優秀教員として表彰して頂きましたことを心より感謝申し上げます。本学の「保育音楽療育士」「こども音楽療育士」教育課程は、前任者である林 昌子氏(元札幌国際大学教授)が地域の有志と共に約20年前に発足した音楽療育研究会の活動が基盤となり、本学に設置されました。研究会活動の柱は、地域の障がいのある子どもと家族のために学内で開催した音楽療育ワークショップでした。現在、音楽療育WSは地域貢献事業として本学の強力なバックアップを得て開催を継続しております。前任者の長年の取り組みにより、音楽療育WSは関わりのある親子のみならず、地域の保育や療育機関にも信頼される事業として認知されるようになりました。

本学で学ぶ学生にとって最も有益な点は、この音楽療育WSで2年間に渡る長い期間、実習ができるということです。音楽療育WSは、課程の専門科目を担当する教員たちも運営に関わっています。この環境を最大限に活かすため、各教員は実習を含む専門科目を連携させるシラバスを作成しています。そして、子ども理解と共に繋がる音楽療育を、学生が現実的・具体的に捉えることができるような授業を全員で研究して参りました。私は、科目を担当するだけではなく、WS運営と「保育」「こども」音楽療育士教育課程を統括する役目も努めさせて頂いています。学生が自ら学ぶ意義を見出し、意欲的な学習を促す体系が構築されてきたのは、前任者の地道な土壤づくりと、科目間・教員間連携の賜物であると確信いたします。この度の表彰は、音楽療育チームの教育力に対する評価であると受け止めております。多くの方々のご理解とご尽力に支えられ、学生にとって魅力ある充実した教育が実現しておりますことに、あらためて感謝を申し上げます。

音楽療育士教育課程で学んだ学生を、多様な子どもたちに対応する保育力を備えた人材として現場に送り出せるように、今後も力を尽くしてまいります。

デザイン制作を通じた実践的なビジネス実務教育

福島学院大学 短期大学部情報ビジネス科 准教授 木村信綱



このたびは、平成27年度の実務教育優秀教員として表彰いただき、心より感謝申し上げます。

福島学院大学は、学院創立75周年、短期大学開学から50周年を迎えました。私の所属する情報ビジネス科は、女子短期大学秘書科から平成12年の男女共学化に合わせて改組し、ビジネスの現場で即戦力として活躍できる人材育成を目指す学科として再スタートしました。ビジネス実務能力やマナー教育と基本的なITスキルをベースに、デザインも学ぶことができる点が特色です。

私の担当する「グラフィックデザイン演習」や「ウェブデザイン演習」では、デザイン業界を志望する学生だけでなく、一般企業への就職を志す学生にとっても将来役立つスキルとして、課題発見や情報発信の手法、アイデア発想法などについて広く取り扱っています。

作者が思い通りに制作できる芸術と違い、デザインには必ずクライアントが存在し、成果が求められます。ニーズの把握や競合分析などを経て、アイデアを拡散・収束させながら課題を解決していくプロセスは、ビジネス実務の縮図とも捉えることができます。また、すべての企業・団体は必ず何かしらの情報を発信しますが、その情報はデザインという形でユーザーに届けられます。このように、情報ビジネス科ではビジネス実務教育の一環としてデザイン教育を行っています。

情報ビジネス科が福島駅前のサテライトキャンパスに移転した平成18年から、周辺の企業や団体からデザイン制作を受託し、私のゼミに所属する学生と一緒に地域の課題を解決する取り組みを始めました。平成23年の東日本大震災以降は、福島県全体で情報発信と課題解決のニーズが高まり、市内の温泉旅館の若旦那を主役にしたフリーマガジン「若旦那図鑑」の企画制作を始め、多くの連携プロジェクトを手がけることになりました。学生にとっては架空の授業課題と違い、社会人を相手に、納期とオーディティを意識した緊張感のある学びの場となっています。今後もこうしたプロジェクトを通じて、地域に根ざした実践的な教育を開拓したいと考えております。

真の実践力育成に向けた 教育への取り組み

大阪成蹊大学 マネジメント学部
教授 稲村 昌南



はじめに（教育の基本方針）

大阪成蹊大学マネジメント学部(以下、本学部)では、大阪成蹊学園の建学の精神「桃李不言下自成蹊」および行動指針「忠恕」に基づき、現代の社会・経済環境の下で求められる「ビジネス(業務の設計と運用)とマネジメント(経営資源の管理と活用)及び情報処理に関する基礎的能力とスキル」及び「コミュニケーションに関する基礎的能力とスキル」を修得し、企業・組織の中で自ら考え主体的に行動するとともに、他人と協働しながら、現代の多様な経営課題の解決に貢献できる「人間力」を備えた人材を育成することを目的とした教育を行っています。

専門教育と人間力教育の両立

本学部では、ビジネスとマネジメントを土台としながらも社会の多様なニーズに対応すべく、マネジメント学科とスポーツマネジメント学科の2学科を設置しており、さらにマネジメント学科には経営、食ビジネス、観光ビジネスの3コースを配置し、それぞれの分野で必要となる専門知識と技能の習得をめざします。これらは、ビジネスとマネジメントの基盤知識を修得するための「学部共通専門科目」とスポーツ、経営、食、観光の4つの領域の専門知識を修得するための「学科別専門科目」を履修することにより系統的に身につけられるようになっています。

一方で、近年、産業界から強く求められている「人間力」や「社会人基礎力」等の名称で呼ばれる汎用的な能力の育成にも力を入れています。こうした能力は一般に受け身ではなく能動的な学びの中で育まれることが知られています。そこで、「講義」、「演習」、「実習」といった授業の形態に関わらず、双方向型のいわゆる「アクティブラーニング」を積極的に取り入れています。教員と学生による対話や学生同士の学び合い(ペアワーク)、また複数で協力しながら課題に取り組むグループワークなどをを通して学生から学ぶ意欲を引き出し、学生が主体的に学びに取り組めるような環境づくりに努めています。

社会とのつながりを意識した実践教育

アクティブラーニングは、学生自らがアクションを起こすきっかけとなるという意味で実践力を向上させる1つの要因となりますが、真の実践力は社会の実問題の解決を通して養われるといえます。そのため、学外に出て、社会の人々との関わりの中で思考し、行動し、学びを深めていく授業が有効となります。協会の「実践キャリア実務士」の必修科目となっている「基礎演習1」では、大学の所在地である相川地区の活性化策について学生が主

体となって企画するというプログラムを実施しています。この過程で学生は、現場を歩き、地域の人たちとのコミュニケーションを通して課題を発見し、解決案を提案するという実社会と同じ枠組みの中での課題解決プロセスを体験します。1年生科目ということで、専門的な知識が求められるわけではありませんが、学生は1つの疑問から学びを掘り下げていくことの大切さを実感するようです。

専門スキルを高めるためのアクティブラーニングは、企業や自治体との連携という形で実施されます。「上級ビジネス実務士」の資格取得要件科目である「ビジネスマネジメント実践演習」では、実在の商品について学生が企画案を提案するという授業を展開しています。その際には、商品を扱う企業から現実に抱える課題が提起されます。たとえば、「この商品を中国人観光客に買ってもらいたいが、どうすればよいか?」といったものです。これに対し、学生は商品特性やターゲットの特徴・傾向などを分析し、その結果を踏まえ販売促進の企画書を作成します。企画書に対する評価は時に厳しいものになりますが、学生にとっては、実務の現場レベルを肌で感じができる重要な機会となっています。

実践力を向上させる学習サイクルの確立

学習効果を高めるには、実施で終わるのではなく実施と評価、そしてふりかえりのサイクルを機能させることができます。そこで、本学部では12の要素から成る独自のコンピテンシーモデルを設計し、それぞれの要素についてループリックによる自己評価を行うeポートフォリオシステムを構築しています。学生は、上記のような産学連携のアクティブラーニング実施後に自己の活動をふりかえり、実践の中で能力を発揮できたか評価するとともに、過去の評価との比較からグラフ化された経年変化を通して自己の成長度合いを認識します。

おわりに

社会で求められる真の実践力を育成するために、本学部では社会との関わりの中で主体的に学びを深めていく学習に力点を置いています。アクティブラーニングを取り入れたこうした学びは、「実践キャリア実務士」や「上級ビジネス実務士」の取得要件科目となっており、資格取得に向けた学習が実践力の育成と連動するようカリキュラム設計しています。今後は、独自のループリックに加え、協会が作成したループリックの活用を通して、学生が成長をより実感できるような教育に努めてまいります。

協会からのお知らせ



訃報

本協会 名誉会長 和野内 崇弘先生病氣療養中の処10月17日に永眠いたしました。(享年85歳)

資格改革に係る資格の体系化

本協会の資格は全部で28存在していますが、会員校のニーズに対応して資格開発を進めてきたという背景から、全体として統一感を欠いてしまっているため、次の点を踏まえて資格の体系を作成しました。

全国大学実務教育協会資格の体系

一人へのまなざしをとらえた就業力・汎用的能力の修得と幅広い専門分野に対応した実務力の修得をめざす

資格の分類	
教養・基礎的能力の養成分野	<p>大学と働く現場をつなぐ就業力を養う ・実践キャリア実務士*</p> <p>社会人に求められる汎用的能力を身につける ・プレゼンテーション実務士 ・ビジネス実務士 ・秘書士 ・ウェブデザイン実務士 ・情報処理士</p>
専門的能力の養成分野	<p>進化する産業分野に対応した実務力を身につける ・上級ビジネス実務士 ・上級ビジネス実務士(サービス実務) ・上級秘書士 ・上級秘書士(メディカル秘書) ・上級情報処理士 ・観光ビジネス実務士 ・環境マネジメント実務士 ・上級環境マネジメント実務士</p> <p>国際社会に対応した実務力を身につける ・上級ビジネス実務士(国際ビジネス) ・上級秘書士(国際秘書) ・国際ボランティア実務士</p> <p>教育・福祉の専門分野に特化した実務力を身につける ・保育音楽療育士 ・こども音楽療育士 ・園芸療法士 ・生活園芸士 ・カウンセリング実務士</p> <p>地域社会の専門分野に特化した実務力を身につける ・社会調査アシスタント ・社会調査実務士 ・NPO実務士 ・ボランティア実務士</p>

*実践キャリア実務士は、学修成果の評価方法として協会が認めるループリック(到達目標達成度評価票)に基づいて学生一人ひとりの就業力を評価する。

平成28年度実務教育優秀教員

被表彰者の推薦期限

平成28年度の実務教育優秀教員の推薦受付は、平成28年11月15日(火)から12月15日(木)までとなっています。ご推薦をお待ちしております。

平成29年度新規入会及び

新規教育課程認定等の申請期限

平成29年度新規入会及び新規教育課程認定等の申請期限は、平成29年1月25日(水)です。

すでに承認を受けている教育課程の変更(科目の追加・削除、科目名の変更、協会承認の〇印の専任教員の変更等)についても、変更実施前に事前に上記提出期限までに申請する必要があります。

なお、既にご案内のとおり資格必修科目のシラバスの様式が変わりましたので、申請書類を作成の際はご留意をお願いします。申請書類の様式は、協会ウェブサイトからダウンロードできますのでご利用ください。

また、事前指導を受け付けておりますので、申請書類の作成方法や、教育課程の内容等についてご不明な点がございましたら、事務局(電話03-5226-7288)までお問い合わせください。

平成28年度3月期資格認定証の

授与スケジュール

平成28年度3月期の資格認定証の授与スケジュールは、次のとおりです。期日厳守でお願いします。

平成28年

10月25日	協会→会員校	資格認定に関する調査表提出依頼 発送
11月7日	会員校→協会	資格認定に関する調査表 提出〆切
調査表受理後	協会→会員校	資格認定証申請手続について 発送
12月5日	会員校→協会	資格認定証申請書・一括表等提出、申請料納付 メ切
申請確認後	協会→会員校	申請書類等の受理について 発送

平成29年

1月11日	協会→会員校	授与予定者リスト校正依頼等 発送
1月25日	会員校→協会	授与予定者リスト訂正連絡票、単位認定教授会・資格認定証授与予定日程 提出〆切
単位確定後	会員校→協会	資格認定単位修得確定報告書 提出
確定報告書受理後	協会→会員校	資格認定証 発送
認定証受理後	会員校→協会	資格認定証受領書 提出